

私の一文字「絆」

副代表幹事
車谷 暢昭

東芝
取締役代表執行役社長 CEO



「絆」は全ての原点

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、車谷暢昭副代表幹事にご登場いただきました。

岡西 「絆」は、私も大好きな漢字です。

車谷 人間は社会的な動物ですから、集団の中で自分の位置を確認しコミュニケーションを取る、つながる、一体として何かを成し遂げる。絆を一つひとつ紡いでいくことが重要です。絆を紡いでいないと生存できないし、良い仕事もできません。絆は全ての原点だと思っています。

岡西 「絆」という文字の成り立ちは、糸偏と「半」という文字に分かれます。「半」の上の二つの点は「八」、分けるという意味で、下は「牛」の象形文字。「半」は「牛を二つに分ける」という意味になります。そこから中国では昔、二つに分けた牛を糸でぐるぐる巻き付けて一つにするという意味の言葉から「絆」を意味するようになったといわれています。

車谷 私はよく、「なぜそんな人まで知り合いなんですか」と尋ねられますが、特殊なことはしていません。皆さんと長い付き合いがある中で、大臣や社長、学長などになりましたという人が出てくる。信頼関係さえ結べればコミュニケーションは続きます。結んだ絆を長く維持し続けていくことに価値があると思っています。

岡西 どのように維持されているのですか。

車谷 お互いにリスペクトしながら、出会った人との関係を大事にしています。芸術家や財界人、メディア関係者…。中にはまったく価値観が違う人も結構います。それはそれ

で面白いですよ。

岡西 車谷さんは東芝のCEOに就任された際、管理職の方一人ひとりと1時間面接をされたと伺っています。

車谷 東芝再生案を紙にまとめ、部長一人ずつに見せました。会社は結局、絆の塊のようなものです。経営者は一人では何もできませんが、経営者に意志があり、きちんと信頼感を構築して絆で結べば何でもできるともいえます。東芝グループは従業員が10万人以上という巨大な会社ですから、全員がきちんと機能すれば皆でものすごいことができます。

岡西 反応できない方も多いと思うんですが、車谷さんがまず本音を語ることで相手の心を開いていくのですか。

車谷 たとえ反発があっても、反応があることはすごく重要です。「それならどうする?」と、一緒に始められますから。人は出会って1分くらいでコミュニケーションを取ろうと相手の全体を理解しようとするらしいんです。表情、印象はすごく重要です。だから私は満面の笑みで人と会うようにしています。コミュニケーションを重ねるようになれば言葉が大事ですが、絆を結ぶ上では最初の印象に全力を投入した方がいいのでは、という思いがあります。

岡西 経済同友会ではどんな絆を結ばれていきますか。

車谷 経済同友会は戦後の設立時のように若手経営者をもっと多く参加すべきです。「若手経営者参加促進委員会」を提案したのも、財界組織には若手が必要だからです。未来をつくっていく人は20代や30代。若い経営者をたくさん入れて経済同友会の活性化につなげていきたいと思っています。

書家

岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

